

13歳の少年が東京と新潟で体験したこと

坂井 輝松

私はいま新潟市東区で暮らしています。日本が戦後50年の節目を迎えた頃から13歳で体験した戦争の記憶を書き記すようになりました。思い起こせば、あの火の中をよく逃げられたと思います。戦争とは本当に愚かなことです。おおぜいの人の命を奪う。それも女、子どもが多い。あの恐ろしい出来事は二度とあってはならないと思います。

1 江東区大島で体験した東京大空襲

昭和20年3月10日未明。爆音が風の音にまじって近くで聞こえる。^{しょういだん}焼夷弾（注1）が花火のように広がって川向こうにあるガスタンクに落ちていく。ようやく^{くうしゅう}空襲（注2）警報が狂ったように鳴り出した。すさまじい爆音と^{たいくうほうか}対空砲火（注3）の音に近くの人たちも家から飛び出してくる。親父が「駄目だ、早く逃げろ、荒川の方へ行くぞ」と言う。私は恐ろしくなって体が震えていた。大人用のリュックサックを担いで必死になって姉たちに付いていく。

丸八橋の近くは火に追われて逃げてきた人で一杯になっていた。人ごみの中ほどまで来たとき行く手

注1 焼夷弾

火炎や高熱によって人や建造物などを殺傷・破壊する爆弾・砲弾。テルミット・油脂などを焼夷剤とする。

注2 空襲

空中から目標に対して爆弾の投下や機銃掃射などを行うことである。

注3 対空砲火

航空機に対して行われる、火砲による攻撃のこと。

の方に火が見えた。橋の欄干（注4）が燃えてしまっている。あっという間に火風（注5）にあおられ、滑るようにして川に落ちる人たちの叫び声が聞こえた。川向うの第五小学校では荷物に火がついて逃げ惑うおおぜいの人たちの姿が見える。

ものすごい熱風に思わずコンクリートの堤防に体を寄せたが目も口も開けていられない。降ってくる熱い火の粉を傍にいた人と互いに払いあう。息が苦しい。唾をはくと真っ黒いものが口の中から出てくる。とにかくひどい匂い。

煙の切れ間に空が見えてきた。どの顔も真っ黒。私は腰が抜けたようになって立ち上がれない。第五小学校の方を見ると思わず息をのむ。広場には真っ黒になった焼けた人間が折り重なるように死んでいた。どんなに苦しかっただろう。

2 天国のように感じた新潟市

3月12日新潟市へ避難。上野から列車で13時間。新潟駅に到着すると改札口で警察が焼け出された人たちに「今夜泊るところのない人には宿を世話します」と言っている。親父の後について沼垂の叔母の家へ向かう。新潟の町も人もなんだかのんびりしていて、どこに戦争なぞしているのかと思える。

注4 欄干

橋・縁側などのふちに、人が落ちないように縦横にわたしたたもの。

注5 火風

火炎を伴った風。

叔母は「みんな無事だったのか、早く入れ」と家に入れてくれたが電気の明るさにまごつく。東京では外に漏れるといけないからと家の中を暗くしていたので電気の光が目にも染みる。「東京方面は電話線が通じない。よほどひどくやられたのだろう」と叔母たちは心配していた。ふとんを敷いてくれたので横になったが天井がぐるぐると回っているようで気分が悪い。

朝になると叔母が風呂に入れと言う。風呂からあがると新しいパンツや股引など長袖のシャツがきちんと揃えてあった。焼け出された時から着たままでいたので体に染みついた変な臭いがして気になっていた。下着を替えるとさっぱりとしたいい気持ちになった。

私の分の朝食も用意されていたが、それを見たらまた気分が悪くなってきた。あの死んだ人間の姿といやな臭いが思い出されてきて食べる気分になれない。叔母が私の顔を見て、「何も食べないと体に良くない」と言うのでみそ汁だけは飲んだ。

山ノ下に疎開^{そかい}（注6）していた母たちを訪ねる。母は私の顔を見ると涙ぐんで何か言っているみたいだったが、私も思わず泣いてしまったので聞こえない。

叔父^{おじ}が近所の桶屋^{おけや}に話をしてくれたので倉庫を借りることができた。ようやく家族と一緒になれると思

注6 疎開
空襲や火災などによる損害を少なくするため、都市部の住民や産業を田舎へと移動（避難）させること¹

うと嬉しかった。叔母が台所に使う鍋釜七輪^{しちりん}（注7）

から夜具^{やく}（注8）、電気の球を用意して運んでくれた。

母は涙を流して礼を言っていた。叔母は私には「学校へ行く時に着るといい」と金ボタンのいっぱい付いたオーバーをくれた。着てみると「よく似合う」とニコニコしている。金ぴかのオーバーを着て外に出ると、通りの人たちが私を見ているような気がしてなんだか恥ずかしい。

新しい家の掃除が終わった夜、明るい電気の下でご飯を食べた。今まで暗い所でビクビクしながら食べていたから天国に来たような気持だった。

注7 七輪

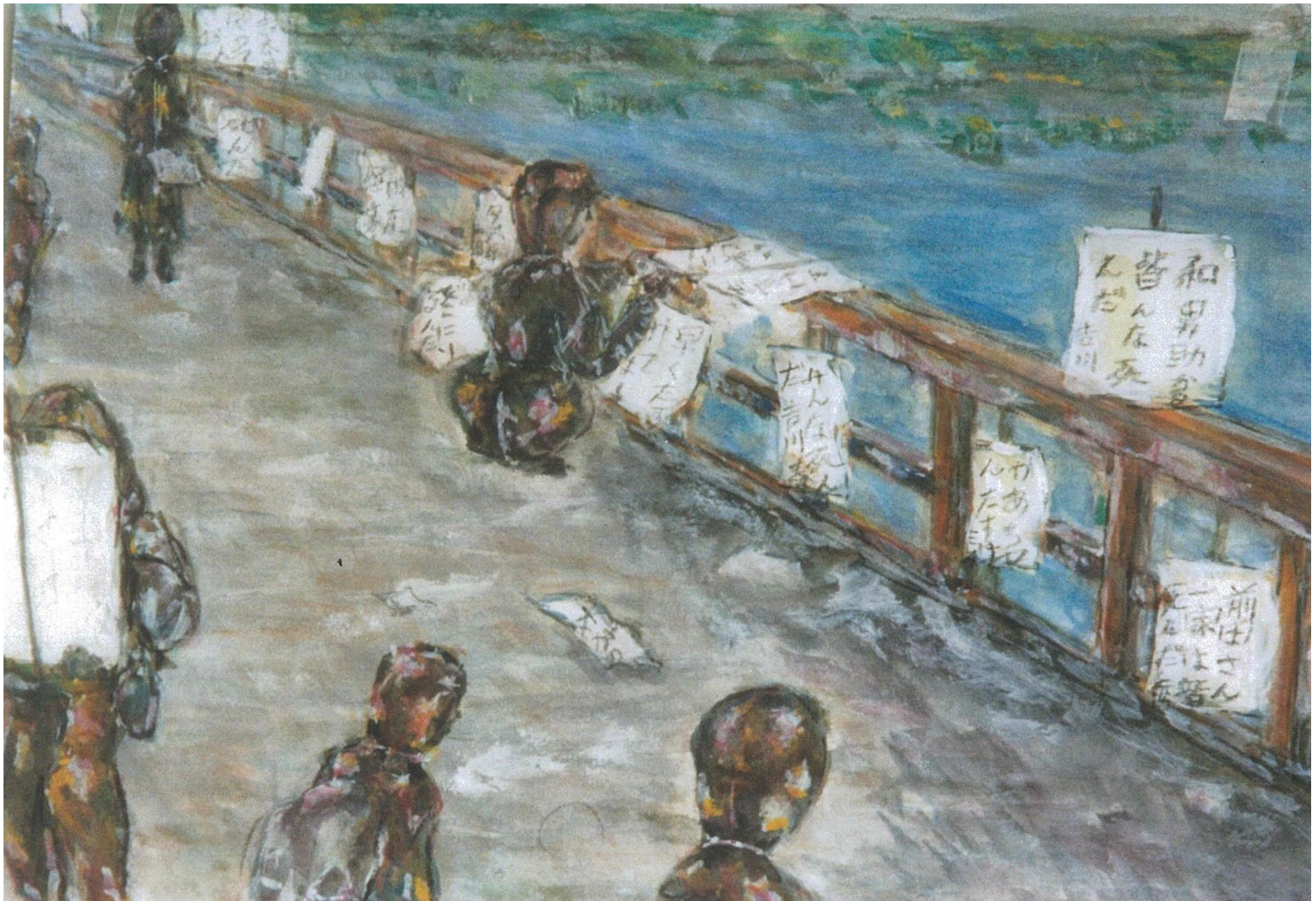
木炭や豆炭を燃料に使用する調理用の炉。

注8 夜具

寝るのに使う、布団などの総称。



東京大空襲により燃えた町 絵：坂井輝松さん



橋の欄干に紙を貼って行方不明の家族を探す様子

絵：坂井輝松さん